

小特集「プロフェッショナル論文」発刊によせて



取締役 技術推進部門担当 草川浩好

当社のプロフェッショナル制度は2002年4月に制定されましたが、制定当初はまずスペシャリストの認定から開始されました。しかしながら、社員に目に見える形での変化が少なく、したがって認知度も低く、制定後2年程度はなかなか制度が浸透しない状態でした。昨年のはじめて9名のプロフェッショナルが誕生したのを皮切りに本年4月にはさらに5名のプロフェッショナルが認定され合計14名となるに従い、各社員にとって、スペシャリスト制度・プロフェッショナル制度が、より身近なものとなったことが社員のかたがたとの会話を通じて感じ取ることができるようになりました。現在当社では700名を超える社員がスペシャリストに認定され、それぞれの専門分野のスキルを活かし、各プロジェクトの核となって活躍し、高品質なサービスの提供にチャレンジしています。

従来、お客様の基幹システムの多くは、長い年月をかけて多くの要員で開発され、大型コンピュータ上で稼動させてきました。このプロジェクト成功のためにはラインを核とするピラミッドの組織体制、装置産業型体制が必要であったと思います。しかしながら、現在は短納期で小回りの利くシステムの開発が中心となり、今まで以上に早いラインの判断と決断が必要となり、組織のフラット化が必須となってきたといえます。この組織の変化とともに、プロジェクト体制も大きく変化し、Web化・少人数体制・短期間のプロジェクトの増加が顕著となりました。これに対応するためには、プロジェクトの各メンバーがそれぞれ担当分野のプロとして自立し、それらが集まりプロ集団を形成し、お客様の期待するシステムを開発し稼動させることが求められるようになったと考えています。これらのプロジェクトにおける中核となることが期待されるプロフェッショナルは、たゆまぬ成長を自らに課し、また成長の結果や実績を社内のみならず社外に向けても発信し、自らの後継者を育成するという時代になったと考えます。

今回、プロフェッショナルに認定された方を中心としたexa reviewを発刊することは、上記の観点からも、「新時代への挑戦」という意味で一つのエポックメイキングであると評価しております。この発刊を第一ステップとして、より多くの社員が今まで以上に積極的にexa reviewへの投稿や、エクサ・バリューフォーラムでの発表に参画されることを期待するとともに、技術的なテーマで社内の各所で議論が交わされるような、会社となることを期待しています。